

平成 25 年度岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業の受賞者の決定について

【要旨】

県では、本県三陸沿岸への研究人材の集積や海洋・水産研究の活性化を図るため、平成 21 年度から若手研究者を対象に、三陸をフィールドとした研究論文を募集・表彰する「岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業」を実施しています。

この度、平成 25 年度の岩手県知事賞及び特別賞の受賞者を決定しましたので、お知らせします。

1 受賞者及び受賞論文について

(1) 岩手県知事賞（2 件）：岩手県三陸海域を対象とした海洋研究として優れた内容のもの

部門	氏名	所属	論文タイトル
学生の部	澤井 悦郎	広島大学大学院 生物圏科学研究科	三陸海域におけるマンボウとウシマンボウの遺伝的・形態的・生態的差異
一般の部	川上 達也	東京大学大気海洋研究所 国際沿岸海洋研究センター	東日本大震災が三陸のアユ個体群に及ぼした影響とその回復過程

(2) 特別賞（1 件）：今後の研究継続により、更なる成果が見込まれる研究又は独創性が高い内容のもの

部門	氏名	所属	論文タイトル
一般の部	塚越 英晴	岩手大学三陸復興推進機構 三陸水産研究センター	三陸岩手における河川遡上サケの遺伝特性の解析

2 表彰式について

(1) 日時

平成 25 年 12 月 12 日（木）14：15～14：30

(2) 会場

エスポワールいわて 3 階 特別ホール（盛岡市中央通 1-1-38）

3 岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業について

(1) 対象研究

- ① 水産資源を含む海洋生物、海洋環境など、広く海洋に関するものであること。
- ② 岩手県三陸海域（沿岸を含む。）を実地調査したものであること、又は同海域における水産業復興に資するものであること。

(2) 応募資格

日本国内の大学等に在学するもの又は研究機関に所属する若手研究者。

(3) 岩手県知事賞・特別賞の選考

専門家及び有識者による「選考委員会」において、論文審査及び口頭発表審査により受賞者を決定。

(4) 応募状況

学生の部 2 名、一般の部 4 名 計 6 名

平成 25 年度岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業 受賞者一覧

1 岩手県知事賞 (2 件)

【学生の部】

氏名	所属	論文タイトル
澤井 悦郎	広島大学大学院 生物圏科学研究科	三陸海域におけるマンボウとウシマンボウの遺伝的・形態的・生態的差異
<p>【論文要旨】</p> <p>8 年前まで、日本近海に出現するマンボウ属はマンボウ 1 種と考えられてきた。しかし、三陸の漁師はこの海域に出現するマンボウを 2 つに呼び分けていた。</p> <p>それらについて遺伝、形態、生態の側面から研究を行った結果、双方は遺伝的距離が遠く、頭部や舵鰭などの形状が異なり、出現する体サイズや時期、水温帯なども異なった。片方を別種として三陸の地方名よりウシマンボウと名付け、両種が三陸に回遊する理由を考察した。</p>		

【一般の部】

氏名	所属	論文タイトル
川上 達也	東京大学大気海洋研究所 国際沿岸海洋研究センター	東日本大震災が三陸のアユ個体群に及ぼした影響とその回復過程
<p>【論文要旨】</p> <p>東日本大震災での津波が、両側回遊魚であるアユの三陸個体群に及ぼした影響と、その後の回復過程を明らかにするため、アユの遡上生態を調べた。鶴住居川では、震災前に比べ孵化日の遅い個体が、若齢・小型で遡上するようになっていた。一方で盛川では、遡上魚が小型化していたものの、孵化日組成と遡上日齢は震災前と同様だった。以上から、津波による影響で個体群特性が変化し、その回復過程が河川により異なることがわかった。</p>		

2 特別賞 (1 件)

【一般の部】

氏名	所属	論文タイトル
塚越 英晴	岩手大学三陸復興推進機構 三陸水産研究センター	三陸岩手における河川遡上サケの遺伝特性の解析
<p>【論文要旨】</p> <p>三陸岩手の水産重要種であるサケについてマイクロサテライト DNA マーカーにより遺伝特性分析を行い、県内には北上川水系河川と沿岸河川で構成される 2 つの遺伝グループがあること、同一河川内の前期遡上群と後期遡上群は遺伝的に異なること、さらに沿岸の河川でも河川ごとに遺伝的分化がみられること、などが示唆された。</p>		